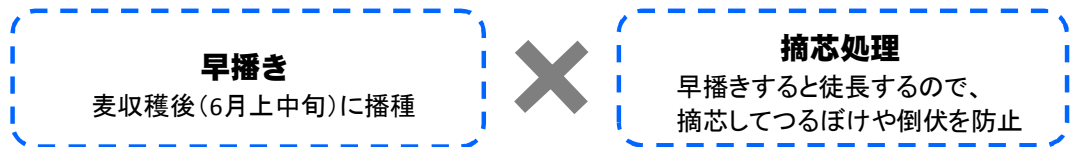


大豆の早播きと摘芯処理による安定な栽培技術の開発に取り組んでいます！

【研究のポイント】

大豆作において生育量を確保し、収量を安定させる第一条件は適期播種です。しかし、**播種適期である7月上中旬は梅雨時期であり、播種が遅れる**場合があります。また、近年増加している**大規模農家では、作付面積が広い**ため**適期内だけでは播き終わらない圃場も**できます。

そこで水田農業グループでは、早播きと摘芯処理を組み合わせた安定栽培技術の開発に取り組んでいます。



【研究の成果】

摘芯処理方法

大豆7～11葉期に、主茎の生長点から4cm程度下でブームスプレーヤに取り付けた摘芯機で切断します。

主茎の生長点→
摘芯位置→



摘芯機による摘芯処理の様子

収量調査結果

播種時期	摘芯時期	稔実莢数 個/m ²	百粒重 g	精子実重		倒伏程度
				kg/10a	比	
早播き (6月10日播き)	摘芯あり	882	32.1	384	146	0.2
	摘芯なし	849	32.0	334	127	2.3
適期播き (7月10日播き)	摘芯なし	558	32.0	263	100	0.0

注1) 水田農業グループ(宇佐市・標高8m)場内試験結果(2016年)

注2) 摘芯時期：7月18日～8月1日(大豆7～11葉期)に1回処理。

2016年は、早播き+摘芯処理区の収量は適期播きに比べ46%増加！
早播きにより莢数が増加し、さらに摘芯処理を行うと倒伏が軽減され、収量増となりました。

【生産者の声】



早播き+摘芯処理は莢付きがよく、収量が多くとれました。早播きのため摘芯処理が必要ですが、摘芯は大豆播種や中耕作業等が入れない時でもおこなえるため、導入しやすいと思います。

宇佐市(農)まっさき 佐々木 智治さん

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 農業研究部 水田農業グループ 水田農業チーム
TEL：0978-37-1160
住所：大分県宇佐市大字北宇佐65